

生活クラブ風の村 2010 年度事業報告(抜粋)

●●●●●共通の課題●●●●●

◇利用者の権利擁護を徹底します。

■権利擁護に特化した職員研修の開催には至りませんでした。初任者研修や新人研修で、行動基準小冊子を用いて法人理念、基本姿勢、行動基準について理解する機会を持ち、朝礼で唱和するなど日々の中でこれらについて考える

機会を持つ事業所なども見られました。

■「苦情解決に関する規程」を改定し、訪問型の苦情解決第三者委員（訪問相談員）を設置しました。

◇経営改革、ケア改革を継続、深化します。(継続課題)

■業務マニュアルを完成させ、ケアの水準の向上と標準化を進めると共に、人材育成に取り組みました。

■生活クラブ虹の街（生活クラブ生協千葉/以下「虹の街」）と共同で「生活クラブ」のブランディングを検討し、ブランド力を高めるため、2011年4月より名称変更を行ないました。また、連動して広報物（パンフレット、ホームページ）の見直しや、新卒採用ツールの見直しを行いました。

■上野文規氏の介護理論・技術研修を、特養ホーム八街、風の村さくら、ライフ&シニアハウス市川（以下「L&SH市川」）、高根台つどいの家で実施すると共に、特養ホーム八街ユニットケア改革の仕上げの年として、(NPO)Uビジョン研究所の本間郁子氏のスーパーバイズを受けました。

■教育研修室を新たに創設し、研修体系を見直して研修計画を立案しました。法人全体研修では、法人の理念や方向性を共有し、初任者研修では、権利擁護や法人の情報、接遇マナーなど法人職員としての基礎を研修しました。管理者研修、部門別研修についても各1回開催し、分野別の研修と連絡会の研修に関する位置づけは研修体系図にまとめました。

■新規採用の正規職員は、約3週間の研修を本部で行なった後、各事業所に配属しました。今後、福祉・介護系以外の学校からの採用を見込み、新卒介護職の研修は特養ホーム八街を中心的な基地とし、介護全般にわたる高齢者介護人材育成の研修体制の構築を目指します。

■事業所で実施すべき事業所研修が、どの事業所でも一定の水準で実施できるようにするために、全ての研修シラバスを完成させました。

■海外研修には今年度は2名が参加しました。

■2級ヘルパー講座では、56名が受講・資格取得しました。そのうち、約13名の方が当法人に就労しました。

■職員向けの資格取得補助制度は整備できませんでした。

■認知症ケアについて、県の「認知症実践者研修」に9名、「リーダー研修」に2名が受講しました。

■ケア記録を共有し、ケア水準の向上を目指すためのケア事例集の作成と、目標管理を進めるための経営管理シートの作成を継続しました。

■職員の労働条件の改善として、今年度から年間休日を2日増やし110日にしました。

■基幹システムプロジェクトを立ち上げ、本部財務部を中心に事業所と連携して、基幹システムの入替えを行ない、全事業所が新しいシステムに移行しました。

◇リスクマネジメント力を強化します。(継続課題)

■年度内に自主監査を行う予定でしたが、実施への準備が整わなかったため、2011年度に向けて準備を進めています。

や、「災害対策指針・災害時の職員行動ガイド」などの見直しについては引き続き行なっていきます。

■職員はじめ、利用者、地域住民など、事業に関係する様々な人によるマルチステークホルダー型運営を目指しましたが、事業所で運営委員会の設置には至りませんでした。

■経営会議、所長会議を毎月1回ずつ開催し、情報共有と組織決定の合意レベルを引き上げました。また、職場会議の参加率を高めるため、複数回開催、開催時間の見直し等を行いました。

■鳥インフルエンザ発生を想定したマニュアル

◇地域のネットワークを生かし、その人らしい暮らしを継続できるように、

地域貢献の活動を積極的に進めます。(継続課題)

- 各事業所の事業計画の充実を目指し、独自目標を設定し、特色ある事業計画を作成した事業所も見受けられました。法人としての共通の課題は事業所によって優先順位をつけていくことも検討課題です。
- 生活クラブ版地域福祉活動計画の作成に向け、事業所のある市町村のうち、柏市、船橋市、成田市、市原市では文章化に取りかかっていますが、千葉市美浜区、我孫子市の策定委員会は未開催となっています。社会福祉協議会へは、

L&SH 市川、風の村さくら、風の村八街が加入しています。

- 認知症サポーター養成講座開催に向けて、事業所でキャラバン・メイト資格取得者の調査を行ないました。2011 年度には、虹の街の組合員、生活クラブ千葉グループ（以下「千葉グループ」）、地域住民を対象に「認知症サポーター養成講座」を行なう予定とし、事前に虹の街の理事会で「認知症サポーター養成講座」を開催しました。

◇ユニバーサル就労を推進します。(継続課題)

- ユニバーサル就労支援室を設置し、個別支援が必要なケースの担当者を決め、対応しました。就業規則見直し等の職場全体のユニバーサル化については、着手できませんでしたが、毎月の支援室会議では、事例共有、外部支援団体からのオブザーバー参加を得て、スキルアップに努めました。
- 千葉グループにおけるユニバーサル就労促進

と社会への発信、提案を目指して、ユニバーサル就労システムづくりの第 2 期ワークショップを開始し、社会モデルとなるシステムづくりに着手しました。

- JFSA(日本ファイバーリサイクル連絡協議会)と連携して、パキスタンのスラムの子どもたちの就業を応援するために、業務用エプロンの試作品の検討を開始しました。

◇新規事業展開と既存事業所を再編します。

- UR 都市機構の公募で採択され、千葉グループの 5 団体が共同で運営する「生活クラブいなげビレッジ虹と風」は、2011 年夏オープンに向け千葉市稲毛区の園生団地内での建設を進めています。生活クラブ風の村では、生活クラブ風の村いなげ(ホームヘルプ/ケアプラン/サービス付き高齢者向け住宅/ショートステイ/デイサービス/児童デイサービス/訪問看護/外来・訪問診療)を運営します。
- 2011 年 7 月 1 日に特養ホーム八街で、特養 30 床、ショートステイ 10 床が増床オープンしました。

- 2010 年 4 月にあかとんぼ飯野が開所、5 月に地域活動支援センターのまんてん柏がオープンしました。

- あかとんぼ土浮は、がけ崩れなどの立地上の問題により、2011 年 5 月に移転しました。デイサービスセンターさくらも使い勝手や事務所機能の改善に向け、事業の再編を検討しています。

- その他に、建物の老朽化が課題となっているデイサービスセンター柏はデイサービス単独事業ではなく、複数での事業展開を視野にプロジェクトを立ち上げ検討を進めています。

◇第 2 次中期計画を策定します。

- 第 2 次中期計画は、地域包括ケア研究会報告書の学習からスタートし、24 時間、365 日化を

キーワードに包括的に地域福祉を担っていくことを目指して作成しました。

◇生活クラブ千葉グループの総合力で地域社会に貢献します。

- 今年度は、多くの共通の課題の項目に、千葉グループが連携して取り組みました。グループ団体がそれぞれ取り組む福祉関連の方針を一望できるような、「生活クラブ千葉グループ福祉活動方針一覧」は作成に至りませんでした。
- 虹の街が推進する「市民の意思ある基金による市民事業の創設の検討」に協力し、「地域元気プロジェクト」へ引き続き参加しました。また、生活再生支援センターからのアリエッティ基

金のカンパ要請を受け、100 万円を地域福祉支援積立金から拠出しました。

- 生活クラブ連合会は、介護保険制度の改定を射程に 6 月に国へ意見書を提出しました。千葉グループ内に介護保険改正チームを設置し、意見書提出に積極的に関わりました。2R 法促進署名運動への協力等、制度改定への提言や社会的に意見表明を行う活動を、時機を逸しないようタイムリーに行います。

2010年度決算報告

1. 事業・資金収支の状況

収入は、障害福祉サービス、入居者の生活援助事業（高根台サポートハウス）、小規模多機能居宅介護事業、入居者の生活援助受託事業（ライフ&シニアハウス市川運営受託）が順調に推移し、ほぼ計画通りとなりました。支出は、特養ホーム八街で昨年に引き続き大型修繕を行い、八街・さくら・市川では厨房業務を外部委託に変更しました。収入は前年を上回り、収支差額は昨年度とほぼ同様の数値となりました。施設整備では、特養増床、いなげビレッジ虹と風の建設費を支出しています。また、財務活動では、いなげビレッジ虹と風の建設費の借入や差入保証金の受入を行っています。そして、昨年の収支差額の一部を使用し、新たに地域福祉支援積立金を創設しました。

事業活動収支計算書概略（2010年4月1日～2011年3月31日） 単位：千円

項目	事業活動収入	前年比	事業活動支出	前年比	経常収支差額	前年比
計画	2,412,971		2,344,883		52,287	
実績	2,423,368	110.5%	2,311,760	111.5%	98,068	93.4%
予算比	100.4%		98.6%		187.6%	

2. 貸借対照表（2011年3月31日現在） 単位：千円（千円未満切捨て表示）

資産の部		負債の部	
流動資産合計	551,806	流動負債合計	307,295
現金・預金	176,773	未払金	128,536
未収金	368,152	施設設備等未払金	124,281
立替金	3,762	預り金	6,104
前払金	2,950	前受金	170
貯蔵品	111	仮受金	339
その他流動資産	55	賞与引当金	47,863
固定資産合計	2,340,158	固定負債合計	1,149,139
基本財産合計	1,427,515	設備資金借入金	778,242
建物	1,265,098	長期運営資金借入金	153,651
土地	162,417	長期預り金	182,600
その他の固定資産合計	912,642	退職給与引当金	14,645
建物	24,074	収益事業元入金受金	20,000
構築物	127,107	負債合計	1,456,434
機械及び装置	8,177	純資産の部	
車両運搬具	1,984	基本金の部	
器具及び備品	47,954	基本金	112,455
土地	33,373	基本金	112,455
建設仮勘定	453,668	国庫補助金特別積立金	888,828
権利	6,126	国庫補助金等特別積立金	888,828
ソフトウェア	15,569	その他の積立金	149,144
投資有価証券	10	修繕積立金	99,988
長期預け金	25,452	施設・設備整備積立金	22,955
収益事業会計元入金	20,000	地域福祉支援積立金	26,200
施設・設備整備積立金	22,955	次期繰越活動収支差額	285,101
修繕積立預金	99,988	(うち当期活動収支差額)	95,557
地域福祉支援積立預金	26,200	純資産の部合計	1,435,530
資産合計	2,891,965	負債及び純資産の部合計	2,891,965

3. 資金収支計算書（2010年4月1日～2011年3月31日）単位：千円（千円未満切捨て表示）

勘定科目		予算	決算	
経営活動による収支	収入	介護保険収入	1,552,932	1,532,579
		自立支援費等収入	251,277	274,598
		療養費等収入	14,193	15,272
		運営費収入	149,395	149,545
		私的契約利用料収入	6,649	7,067
		ヘルパー講座事業収入	2,400	2,179
		受託事業収入	490	904
		入居者の生活援助受託収入	202,847	214,661
		入居者の生活援助収入	29,105	31,842
		経常経費補助金収入	150,256	137,520
	支出	寄付金収入	4,704	1,989
		雑収入	12,022	18,972
		就労支援事業収入	948	1,134
		借入金利息補助金収入	1,084	819
		受取利息配当金収入		746
		会計単位間繰入金収入	558	2,522
		経理区分間繰入金収入	47,555	41,591
		経常収入計	2,426,420	2,433,948
		人件費支出	1,704,910	1,681,890
事務費支出		358,833	338,834	
事業費支出	191,306	202,078		
借入金利息支出	16,885	15,105		
会計単位間繰入金支出	558	2,522		
経理区分間繰入金支出	47,555	41,591		
経常支出計	2,320,048	2,282,022		
経常活動資金収支差額		106,372	151,925	
施設設備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	122,400	117,672
		固定資産売却収入		159
	施設整備等寄付金収入		579	
	施設整備等収入計	122,400	118,411	
支出	固定資産取得支出	813,430	497,125	
	施設整備等支出計	813,430	497,125	
施設設備等収支差額		▲691,030	▲378,713	
財務活動による収支	収入	借入金収入	180,000	180,000
		借入金元金償還補助金収入	3,250	3,250
		積立預金取崩収入	47,813	62,853
		その他の収入	181,000	181,565
	財務収入計	412,063	427,669	
	支出	借入金元金償還金支出	58,150	58,212
		投資有価証券取得支出		2
		積立預金支出	78,000	77,967
		その他の支出	10,250	12,718
	財務支出計	146,400	148,900	
財務活動資金収支差額		265,662	278,769	
予備費		33,000		
当期資金収支差額合計		▲351,996	51,981	
前期末払資金残高		240,393	240,393	
当期末払資金残高		▲111,602	292,375	